

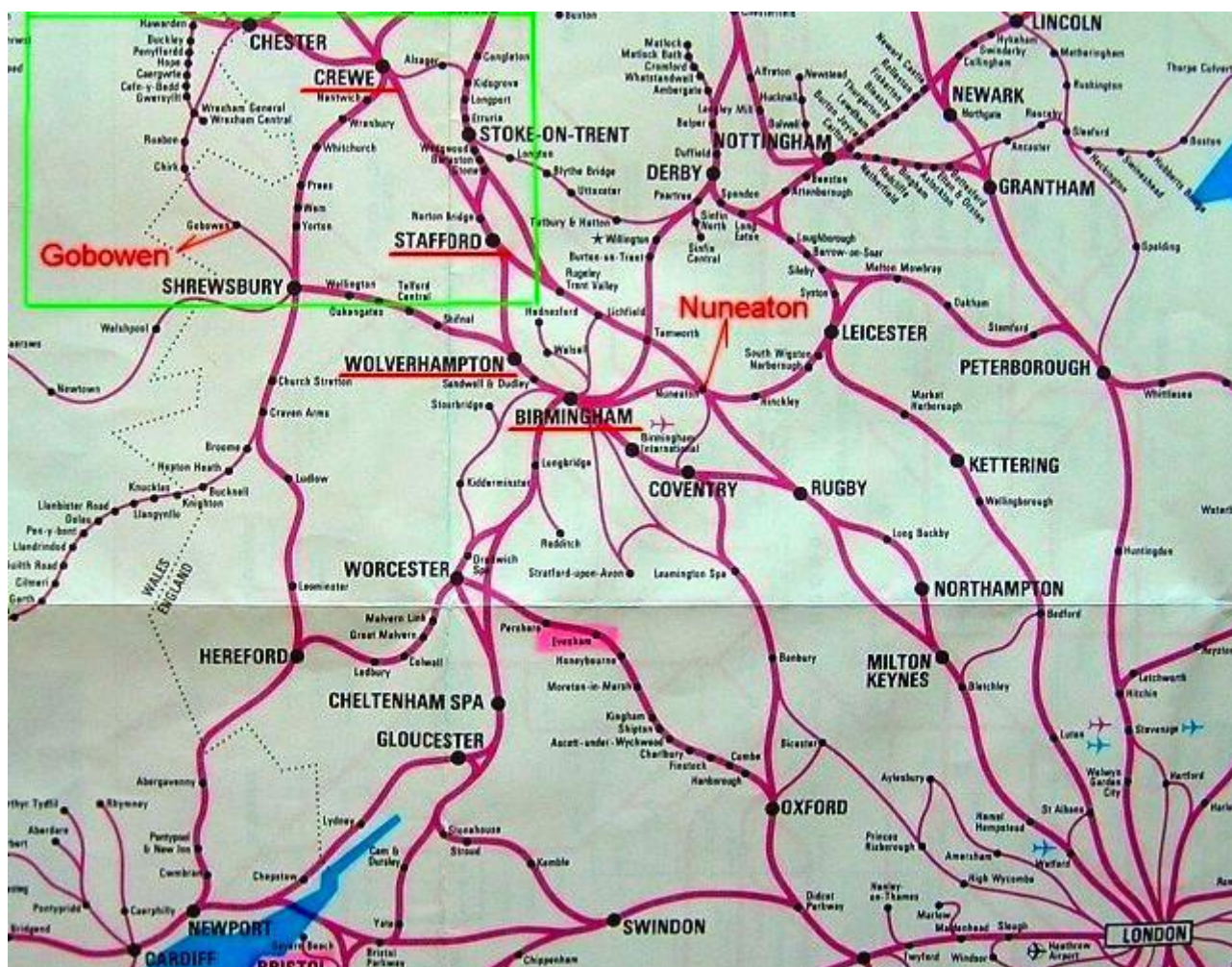
皆さん、こんにちは。

処暑を過ぎたというのに毎日暑い日が続いていますが、お変わりありませんか？ 私たちは、クーラーも扇風機も持たず、車にもなるべく乗らず、エコ・ライフに徹しています。 両極の氷をこれ以上溶かさないように・・・。

これまでの最高室温は32度、湿度さえ高くなければどうということはありませんが、この温度で70数%になるともういけません。まあまあ快適と思えるのは30度・65%未満でしょうか。毎日の散歩も暑くなってからは深夜にしています。 では巡航記第二弾です。 涼しかったウェールズが懐かしい。

### 「カアディスからの手紙」番外編

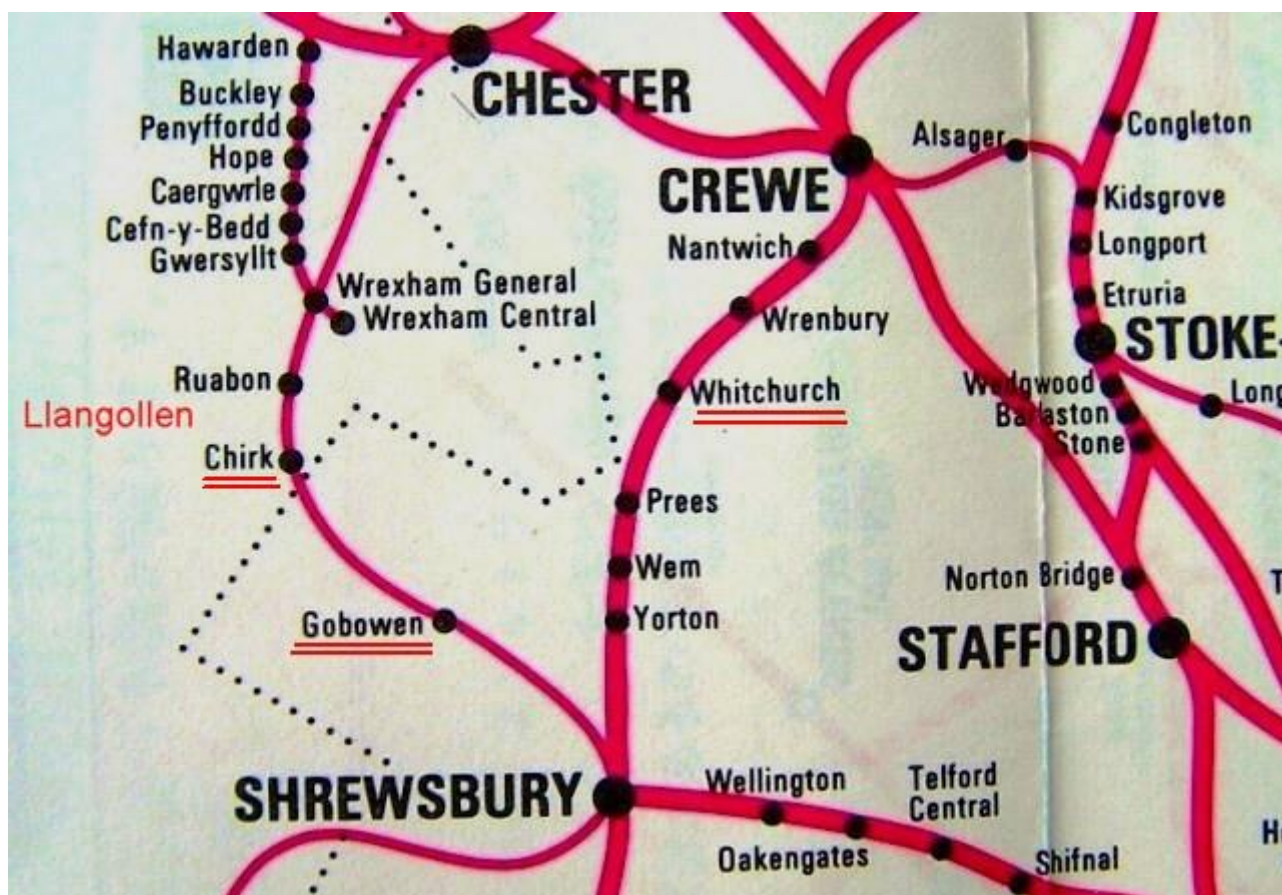
ナロー・ボート巡航記（運河の旅）・No. 2 (24/Aug/2007)



これは、トーマス・クックの時刻表についていたイギリスの鉄道路線図のうち、

イングランド南部だけを取り込んだものです。まず、左上の緑の線で囲った部分に注目してください。私達がクルージングしたのはこの長方形の中の一部です。

そして、この緑の長方形を拡大すると次のようになります。



赤線はそれぞれ鉄道路線で、線上の黒丸が駅です。太線は幹線、細いのは、せいぜい2～3両連結の電車か機動車が走る地方鉄道です。

二枚目の路線図のほぼ中央に Whitchurch という駅名が見えますね。その南西方(左下方)に Gobowen、さらにその北西に Chirk。この三つを結んだ三角形プラス Chirk の少し北西方 Llangollen までが今回の行動範囲です。

ボートを予約したミド・ウェールズ・ナローボート (Mid Wales Narrowboats) という貸ボート屋はこの Gobowen 駅から東南東へ約5キロの所にありました。

ですから、ロンドンでY夫妻と合流したら Gobowen までは鉄道での移動、そのあとはタクシーということになるわけですが、この鉄道の旅がかなりの難物です。イギリスを個人旅行なさった方はご存じと思いますが、現在イギリス全土には数多くの鉄道会社が複雑に絡まりあっていて、とても一口で説明できるような状態

ではありません。

これらの多くの会社を統括する「鉄道オペレーター連盟」に加盟する会社だけでも27社あるというのです。それらが「相互乗り入れ」みたいなことをやっている所もあり、競合し合っている所もありで、とても通りすがりの外国人が簡単に把握できるようなしろものではありません。

例えば、ロンドンからゴボウエン Gobowen に行こうとしてネット検索すると、ロンドン・ユーストン駅朝8・9時台に絞っても次のような経路が提示されます。各駅名は乗換駅。ロンドン～ゴボウエン間たった4～5時間なのに最低二回の乗り換えが必要です。これを見ただけでも、いかに非能率的なシステムかということが感じられるでしょう？ いろいろな会社が複雑に絡まりあっているから、こんなことになってしまうのでしょうか・・・。

- 1) Euston--Nuneaton--Birmingham--Shrewsbury--Gobowen
- 2) Euston--Wolverhampton--Shrewsbury--Gobowen
- 3) Euston--Stafford--Wolverhampton--Gobowen
- 4) Euston--Birmingham--Shrewsbury--Gobowen
- 5) Euston--Crewe--Shrewsbury--Gobowen

ここで、試しに最初の路線図に戻って五つの経路をたどってみませんか？ Euston 駅はロンドンのターミナル駅の一つで、主に北西方面への路線の出発駅です。まず、驚いたのは最初の乗り換え駅が全部違うこと。次に、1)の Nuneaton、3)の Stafford、5)の Crewe は一見同じ路線上にあり、2)の Wolverhampton と4)の Birmingham さらにはその後の乗り換え駅 Shrewsbury も1) 3) 5) とは別の同じ路線上にあるように見えます。

それなのに、なぜこんなに乗り換えを繰り返さなければならないのか？  
そこが各地方ごとに分断され民営化されている鉄道の泣き所なのでしょうね。  
または、そんなに多くの選択肢があるほど、鉄道網が細かく張り巡らされている  
と言うべきか？

今の日本なら、東京から最寄りの駅まで新幹線、そこからは在来線一本でたいいていのところへ行けちゃいますよね。

経路の選定だけでもこれだけ複雑な上に、その上更に料金設定が恐ろしく複雑怪奇です。例えば、簡単に往復切符と言ってしまうわけにはゆかず、スーパー・セイバー・リターン、セイバー・リターン、スタンダード・オープン・リターンなどがあり、同じ発着駅間でも料金にそれぞれかなりの差があります。

更に更に、クラスの違い、指定席か否か、もからんでもう滅茶苦茶。

そして、往復切符はほとんどの場合、片道切符よりほんの少し高いだけか、片道の二倍よりはるかに安いのです。

だからイギリスで鉄道の旅をするなら、片道切符で行きあたりばったり、は絶対損ですね。まあ、日本からそのつもりでイギリスに行くときは乗り降り自由のブリットレイル・パス **Britrail Pass** を用意するのが得策でしょう。

ボートの話が鉄道の話になってしまいそうなので鉄道の話はここまでにします。BS放送各局で世界各地、特に欧州各国の鉄道の旅について色々な番組をやっていますが、ここでお話ししたようなことにはあまり触れられていないのはなぜでしょう。鉄道の旅の面白さは沿線の景色や車内の同乗者とのふれあいだけではないと思うんですけどね。私たちが経験しただけでも、国ごとに地方ごとにかなり色々変わった切符の買い方がありました。出札窓口の対応も係員の個性を超えたお国柄があつてとても面白い。

さて、ゴボウエン駅までの鉄道の旅は問題なく済んだことにします。

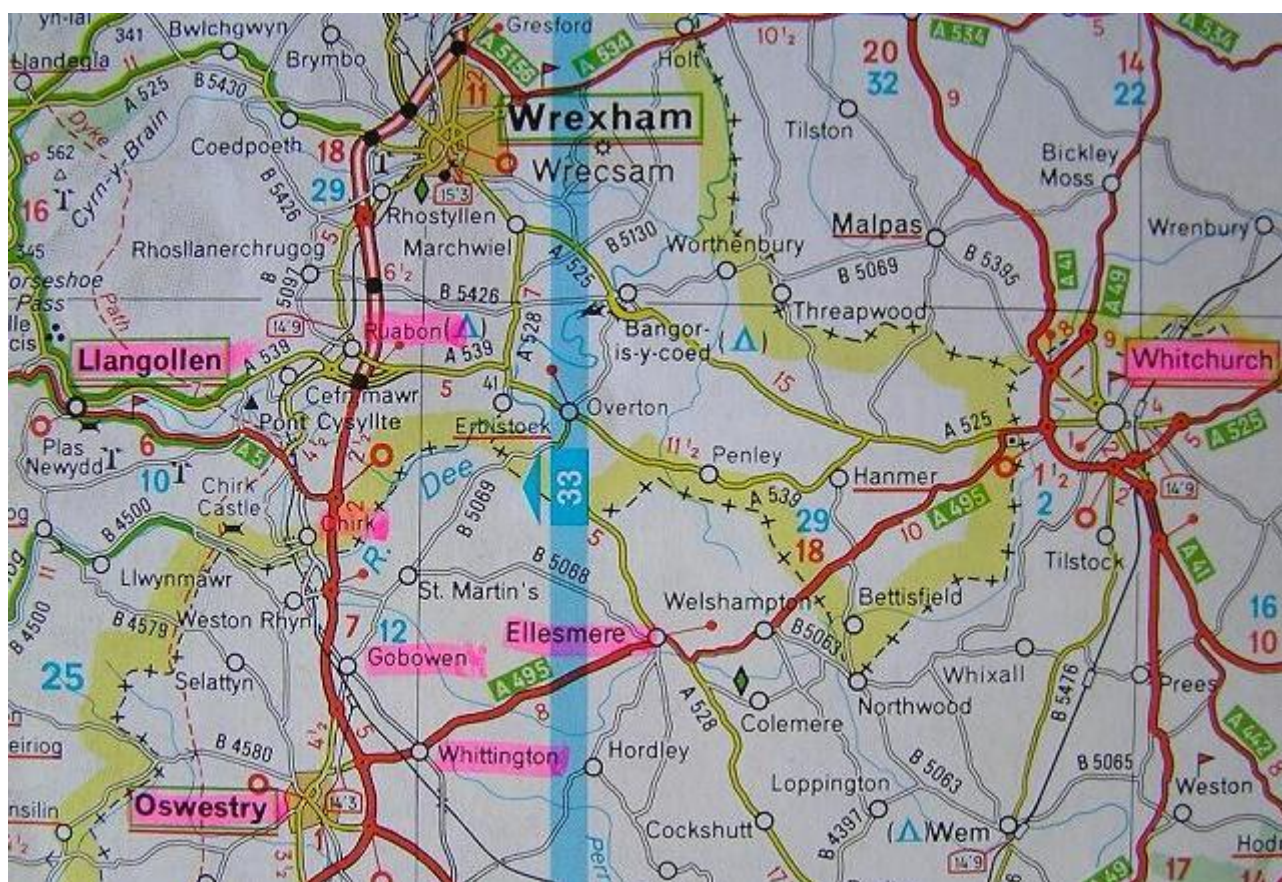
次は運河クルージングの地域についてです。ここでまたもや、地図の登場。実は最近、地図嫌いの人が結構多い、という事に気づき、改めて驚かされています。斯く言うRは、どこへ行くにもまず地図を見ないことには落ち着きません。全く知らない所へ行く時でも、人に道を聞くということは、まずありません。

車でもカーナビは使ったことがありません。あんなものRにとっては百害あって一利なしに等しい。だって、あんなものを頼りに運転するなら地図を見て思いを巡らす楽しみがなくなるじゃないですか？

まあ、便利この上ないものであることに異論はありませんけどね……。

地図を見るのが嫌い、という人は知らない所へ行くときはどうするのでしょうか。そういう人は、場所を特定する時に大抵「右」とか「左」で済ましてしまうらしい。または「あっち」とか「こっち」とか……。右・左も、あっち・こっちもその当人が向いている方角によって本当の方位は全く違いますね。Rの身近にもそんな人がいて、いつもそれで喧嘩になってしまいます。

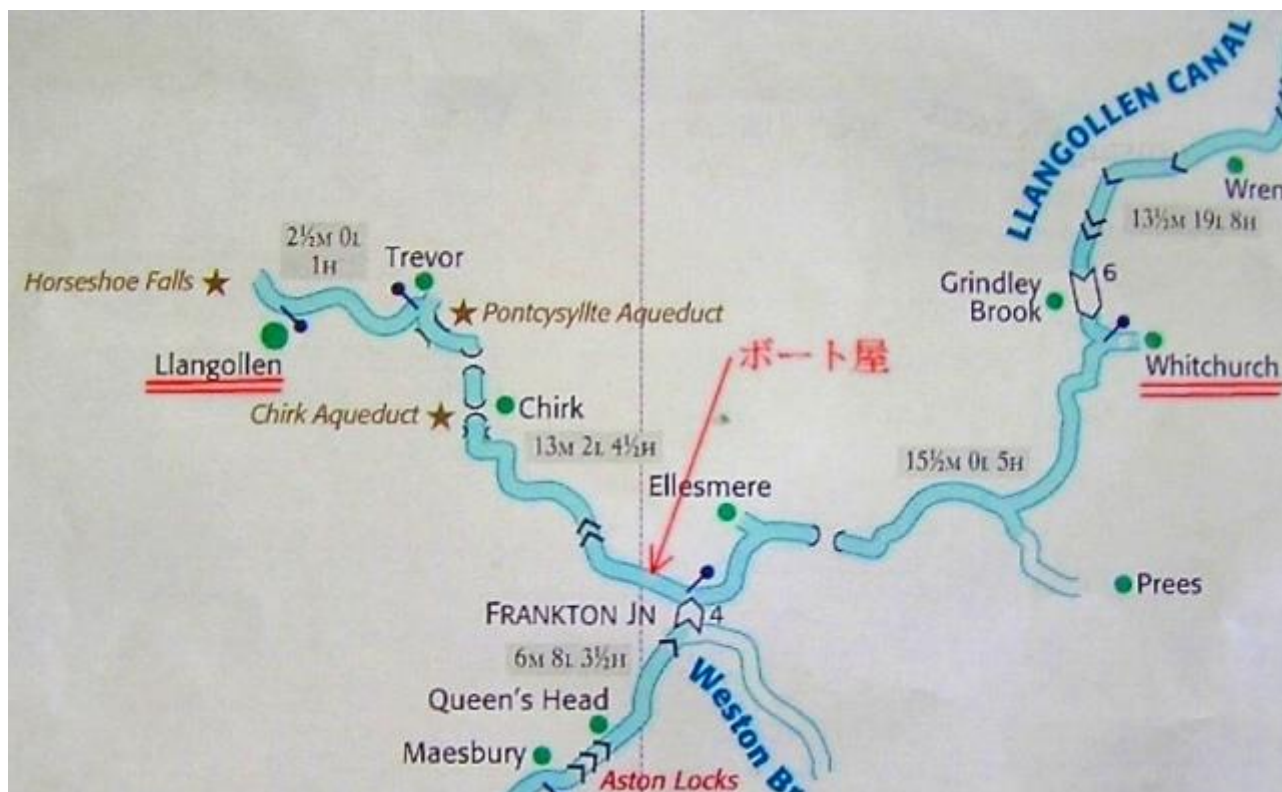
それはともかく、運河クルーズにカーナビは馴染みませんから、まず、地図をじっくり眺めるといふ、当方の流儀にならって下さい。



中央やや下に Ellesmere、右上に Whitchurch、左上に Llangollen という地名が見えますね。そして、これらを結んで細い水色の線があつて、それが運河

または付近の川なのですが、残念ながらこの図では薄すぎてはっきりはたどれません。そこで、次の運河の図を、上の地図に頭の中で重ね合わせてみて下さい。

この二枚の縮尺はやや違いますがカバーしている範囲はほとんど同じです。



どうですか？ 行動範囲の距離感がつかめますか？ 道路上にある赤い虫ピンの基点間距離は赤字がマイル(ランド・マイル=1.6キロ) 青字がキロ数です。また、上の水路図の黒い虫ピン間の数字はマイル数とロックの数、及び標準的走行所要時間。

例えば、ボート屋のすぐ右の虫ピンから左上の Trevor 近くの虫ピンまで、13M 2L 4・1/2H となっていますね。これはこの間の距離は13マイル(約21キロ)、ロックが二か所、スムーズに行ければ4時間半で行けるよ、ということ。

ボート・ヤードから出発して、まず、東の終点は Whitchurch。そこで折り返して、今度は西の終点 Llangollen 迄。再び折り返して元のボート・ヤード迄。

要するに全行程は Whitchurch~Llangollen 間の二倍ですね。

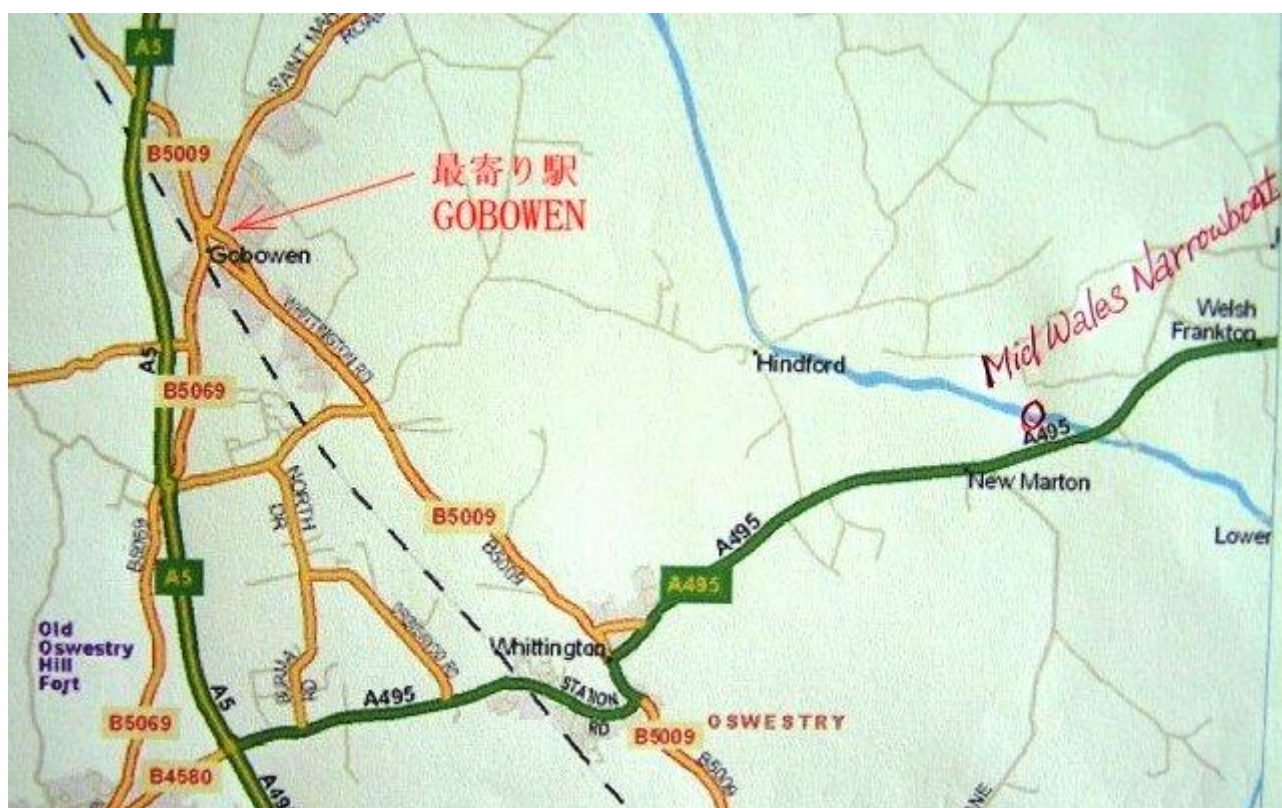
$15 \cdot 1/2 + 13 + 2 \cdot 1/2 = 31$ 、31マイルの二倍は62マイル、これに1.6を乗じると99.2、約百キロになります。

また、同じ二地点間を赤い国道で行くと、 $29 + 12 + 10 = 51$ 、 $51 \times 2 = 102$ キロではほぼ同じです。

この距離を一週間かけてクルーズしようというわけ。気の遠くなるようなスロー・ペースでしょう？ それだけ時間を掛ければ歩いたって苦もなく行きつけるでしょう。車で移動すれば3～4時間でオワリ！です。

こういう文字通り「スロー」な旅は日本のオイソガ氏にはやっぱり無理かな？

さて、ゴボウエン駅からボート屋迄の詳細地図を見ると次のようになっています。



水色の線が運河。それと交差する緑色の線は国道495号線。

図の右手でこの二つが交差している所に赤丸の印、Mid Wales Narrowboat と手書きしてあるところが目指すボート屋です。さあ、これでやっと地図の上ではボート・ヤードまで行き着けたわけ。

ここまで調べればもう誰に何を聞くまでもなく、自らの目と足と多少のお金があれば大丈夫、何の障害もなくたどりつけるというもの。こんなことを決行の何

か月前から繰り返して調べているんですねー。

なにせ大ヒマジンですから・・・。

地図嫌いの人でなくてもいい加減ウンザリするかも知れませんが、本人はこれが何とも楽しい。実際のクルージングのほとんど半分は既に楽しんじゃった感じなのです。

ところで、どういう理由でこの地域を選んだのか？ イギリス中にクルージングの拠点となるボート・ヤードは数百あるのになぜここか？

それはこの地域の運河は実に変化に富んでいて、ロックあり跳ね橋ありトンネルあり、そして極めつけは水道橋（aqueduct=アクエダクト）が二つもあること。

しかもその規模と景観が数あるイギリスの水道橋でも群を抜いた素晴らしさで、全英の運河クルージング・ルートの中でも常に人気投票のベスト・テンに入っていること、などなど。そしてこのクルーズのスポンサーY夫妻もここをご所望、ということでめでたくここに決定。

ここで二つ前の運河の水路をもう一度見て下さい。Chirk 及び Trevor という地名の近くに星印が二つありますね、これらがそれぞれ Pontcysyllte Aqueduct と Chirk Aqueduct です。そして前者がその人気投票で抜群の水道橋なのです。

それにしても、この水道橋、難しい名前でしょう？

私達はとても読めません。ボート屋のオネーさんに何度も繰り返して発音してもらったんだけど、何度聞いても聞き取れず、だからもちろん発音もできず、悪いので途中でやめてもらいました。これぞ、ウェールズ語なんですねー。

水道橋の名前だけではなく、この運河は、その終点の地名をとって Llangollen Canal というんですが、一見なんということのなさそうなこの綴りも、実はかなり厄介な発音で、平均的日本人ではスラッと発音するのはかなりホネじゃないかと思います。



このメール・ソフトでの発音記号の入力法が分からないので、あえてカナ表記を試みましたがやめました。どう書いても本当の発音とは思えないからです。興味のある方は大型英和辞書を引いてみてください。 研究社のリーダーズ英和には四通りの発音記号が出ていました。そして、そこに書いてあるカナ表記のランゴレン、という発音でないことだけは確かです。

この Llangollen なんてのは、ウェールズ語の地名としてはむしろ易しい部類に属すでしょう。 前の水道橋の名前もそうですが、母音が適当に挟まっていない綴りが多く、どう発音したらいいのかお手上げの地名も多いのです。例えば、こんなのはどうですか？ Glyndyfrdwy これミススペルじゃありませんよ。何て読むのか見当もつきませんがこう言う地名のところを実際に通ったのです。 母音なんてどこにも、一つもありませんね。

世界で一番長い駅名は南ウェールズのどこかにあると聞いたような気がします。 Rは、何十年か前、コロンビア、ジャマイカ、と南ウェールズの Newport 間の定期船でバナナやマンゴーをせっせと運んでいたことがあります。4週ごとにニューポートに入港したんですが、町の交通標識や町名表示には必ず英語とウェールズ語が併記されていました。 たいていウェールズ語の綴りの方がとてつもなく長いものだったことを覚えています。 これなら世界一長い駅名があっても不思議じゃないなと思ったことも・・・。

その船の用船者である地元の船会社の社員に、あんな難しい言葉を話す人が今でも大勢いるのか？と聞いてみました。「いや、日常、ウェールズ語を使っている人は今はもうほとんどいない、しかし、我々はウェルシュの誇りを掛けてこの言葉を伝えて行くのだ」という答えでした。

うーん、サッカー代表チームでもイングランドはイングランド、ウェールズはあくまでウェールズだもんね。 そういう国を「イギリス」なんていい加減な国名で読んだら甚だ失礼ですよ、ここはやはり正しくUKと言うしかないか。

水路図のひとつ前の地図で++++が続いている黄色の太い線がありますが、これがウェールズとイングランドの境界線です。

左上がウェールズ、右下がイングランドですが、よーっく見るとウェールズ側には読めない又は読みにくい地名があることに気づくでしょう。

そして、中央やや左の上辺近くに **Wrexham** という町がありますが、そのすぐ下に **Wreccsam** という綴りが見えます。これこそ英語名 **Wrexham** に対してウェールズ語 **Wreccsam** の併記(の筈)です。この場合、字数は両方とも7字で同じで長さは変わりませんがね。

さて、今日は地図に終始してしまいました。地図嫌いの方にはごめんなさい。でも、少し頭の体操ができたでしょう？ いつまでも脳に刺激を・・・、私たちの年齢には特に、それが肝心。

こんな地図好きRには、**Google Map** とか **Google Earth** なんていうサイトは実に興味が尽きません。ついついPCの前に長時間かじりついてしまっています。

では、続きは、また今度。！アスタ・ルエゴ！ R y N